

● 本会の動き ●

☆女性技術者ネットワーク 報告☆ 2020年12月11日 オンライン開催

12月11日、オンラインにて女性技術者ネットワークが開催されました。女性技術者ネットワークは、女性技術者・研究者・学生のネットワークづくりを目的とした会合です。今回の会合では、2名の女性研究者の講演がおこなわれたのち、グループに別れて感想を共有する交流会を設けました。

まず初めに、「自己組織化と自己実現と」と題し、九州大学 副学長／九州大学先端物質化学研究所 教授である玉田薫先生にご講演いただきました。現在、局在表面プラズモン共鳴を利用した材料開発の第一線で活躍されている玉田先生。開発されたプラズモンックナノシートを用いて細胞の動きを捉え、防犯カメラの歩容鑑定システムのような情報解析をすることで、例えばがん細胞かを診断するなど、どのように役立つのか、分かりやすくご説明いただきました。ご講演の後半では、現在に至るまでに世界中で研究員として飛び回った経緯や、大学本部の運営に関わってからの気付きをご共有いただきました。「管理職にいずれは就きたいと思っていたが、女性が管理職になるキャリアパスがなかった。それなら、管理職を断れないような経歴を作ろうと思った」との話し、玉田先生の能動的な行動力を感じました。また、大学本部の運営は3年という短期間で自分に何ができるのかを自問しながら、「仕事は基本断らない。ただし、自分の流儀でやる」を指針として行動されているとのこと。キャリアパスを考える上で、キャリアのどの段階にいても大切な気付きを与えてくれるご講演でした。

次の講演では、「心身共に快適な靴研究所」所長である高橋香織氏に、「子育てしながら管理職をやってみて感じたこと、そして今、靴の研究に没頭する理由」と題し、ご講演いただきました。

子育て中に仕事と家庭での両立で直面する課題にどう向き合い取り組んだか、仕事を辞めるべきなのではという“悪魔”が囁く中で継続したからこそ得られたこと、人生を長い目線で考える重要性について、そして現職である快適なパンプスの開発研究を通して女性が心身共に健康に自信を持って生きることを応援したいという高橋氏の強いメッセージが込められたご講演でした。

会社の管理職になったとき、組織の発展を考える重要性と、そのためには組織メンバーがどうやったら輝けるか“脚本づくり”をする必要性、管理職に女性が入ることで評価の観点が変わり、違うやり方ができることで大きな成果に繋がったことなど、現在悩みながら頑張っている人たちへの大きな応援となるお話でした。



オンライン上でご講演される玉田薫氏



オンライン上でご講演される高橋香織氏



交流会の様子

ご講演の後は、6部屋に分かれてオンライン交流会を設けました。それぞれの部屋でキャリアやプライベートに至るまで、様々な情報交換が活発におこなわれ、対面の交流会とはまた違った魅力を感じました。

化学工学会男女共同参画委員会では、2021年3月に開催予定の第86年会においても女性技術者フォーラムの開催を予定しています。ぜひ幅広くご参加いただき、多方面で活躍の方々のエピソードから勇気と活動力を得ていただければと思います。

(執筆：天沢逸里(東京大学)、山内紀子(茨城大学))